

I 研究の考え方

1 研究主題

自ら考え、自ら学ぶ子どもの育成をめざして
～活用力の育成を中心として～

2 主題設定の理由

近年、教育を取り巻く状況が大きく変化し、とりわけ教育基本法、学校教育法が改正され、また平成20年3月には新学習指導要領が告示された。この中で「各教科の指導にあたっては、児童生徒の思考力、判断力、表現力を育む観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視する。」と、活用する力を重視する方向が打ち出されている。

このような状況の中で、本校の子どもたちは、全国学力・学習状況調査及び県基礎学力調査では、基礎的・基本的な知識・技能の習得は概ね良好であるが、知識・技能を活用する力、情報をもとに予想する力、考えをまとめて記述する力等が課題として挙げられる。

そこで本校では、平成17年度より国語科の「書くこと」を中心として研究に取り組んできたが、平成20・21年度石川県「活用力」向上推進モデル校の指定を受け、本年度は「言語活動の充実」とりわけ「書く力」の育成を図ることによって「活用力」の育成をめざし研究を進めていくことにした。

新学習指導要領の総則では、各教科の指導にあたっては児童の思考力、判断力、表現力をはぐくむ観点から、児童の言語活動の充実があげられ、また、中教審答申(H20. 1. 17)では「活用力」をはぐくむための学習活動の留意点として、「言語に関する能力を高めるためには、すべての教科において、記録、要約、説明、論述といった学習活動に取り組む必要がある」そのことが「活用力」の育成につながると述べられている。また、「書くこと」は、「自分と向き合い、自分を確かめ、考える行為であり、思考を文字として書き表すことによって整理され明確になる」また、「書くことが、自分の存在を他に知らせる役割を担う」という重要な意味、役割があると考えられる。

以上のことから、言語活動の中核的教科の国語科を中心に、ノート・ワークシートの指導など、「書く活動」を他教科に広げていくことで、「活用力」の育成をめざした。

3 研究仮説

各教科において、知識・技能を活用する場面で、ノートやワークシート上に、自ら記録、要約、説明、論述などの書く活動を行うようにすれば、めざす子どもが育つであろう

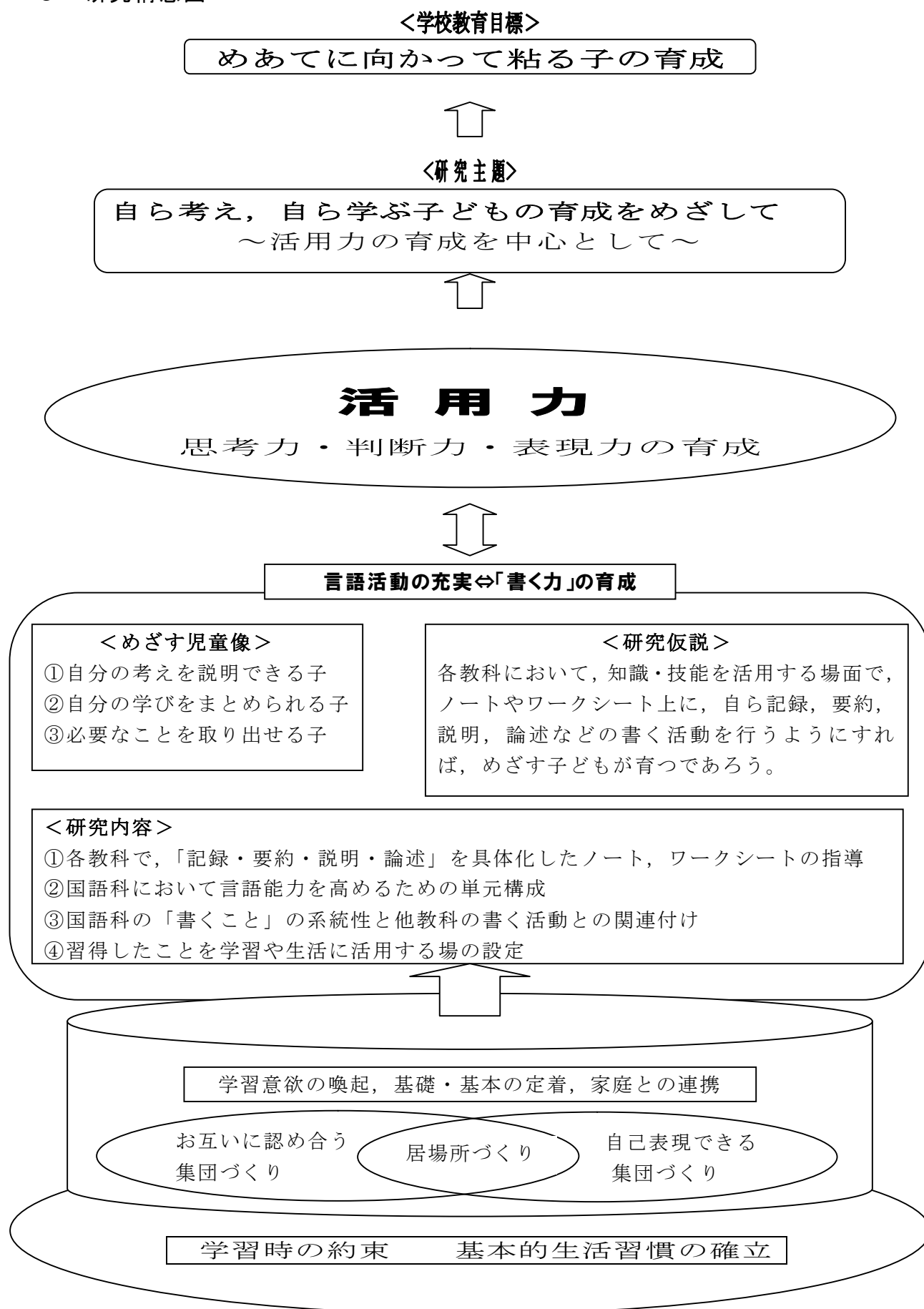
<めざす児童像>

- ①自分の考えを説明できる子……【説明・論述と対応】
- ②自分の学びをまとめられる子……【要約と対応】
- ③必要なことを取り出せる子……【記録と対応】

4 活用力のとらえ

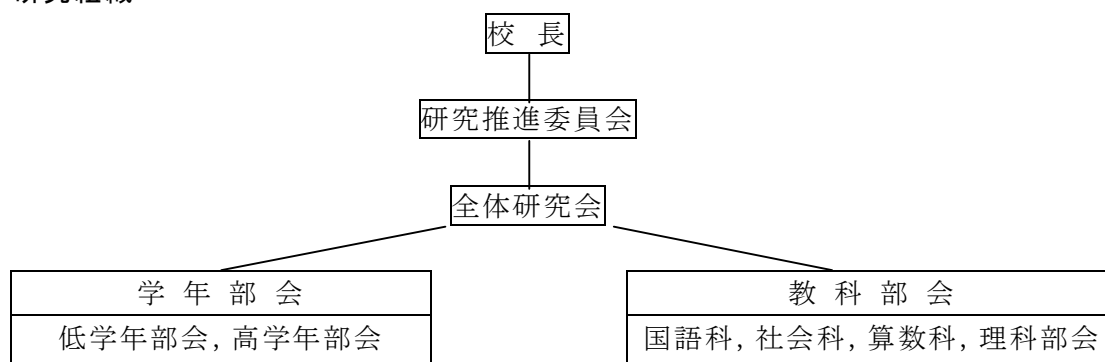
習得した基礎的知識・技能を、生活や学習に活用するための思考力・判断力・表現力などの能力

5 研究構想図



6 研究組織と進め方

(1) 研究組織



- ①全体研究会……週1回(毎週木曜日)に開催し, 研究内容・方法を協議し, 共通理解を図る
- ②研究推進委員会…研究内容・方法の立案, 日程の調整, 各部会への連絡調整
- ③学年部会……授業実践研究, 研究内容・方法の検討
- ④教科部会……教科ごとに研究内容・方法の検討

(2) 研究の進め方

①校内研究会

- ・毎週木曜日, 全体研究会または部会を開催し, 校内研修の定例化を図る。
- ・全体研究会では, 国語科・社会科・算数科・理科の「活用力」育成を目指した研修を深め, 共通理解を図る。
- ・学年部会では, 「活用力」の育成をめざし, 授業研究を中心として取り組む。
- ・教科部会では, 各教科の特性を考慮しながら, 「活用力」の育成について検討する。

③授業研究

- ・全員が1回以上の授業公開を行い, 授業力の向上に努める。
- ・授業公開は学年部会(教科部員も参加)で行い, 全体会に報告し, 成果や課題を共有する。
- ・授業整理会は, 研究テーマに即した観点で話し合い, 研究を深めていく。

7 研究の経過

	20年度	21年度
研究主題	自ら考え, 自ら学ぶ子どもの育成をめざして ～活用力の育成を中心として～	
研究内容	国語科, 社会科, 算数科, 理科において, 学習意欲の喚起, 言語活動の充実, 基礎・基本の定着等を図ることで, 活用力の育成を目指す。	国語科を中心として, 社会科, 算数科, 理科において, 「書く力」の育成を図ることで, 活用力の育成を目指す。
研究のあゆみ	4～5月 研究主題の検討 6月 研究内容の検討 7月～12月 授業研究 9月 要請訪問 11月 「活用力」向上公開授業、 講演会 1月 活用力向上公開授業 3月 リーフレット発行	4月 研究内容, 方向の確認 5月～10月 授業研究 7月 要請訪問 10月 要請訪問 11月 「活用力」向上研究発表会 研究紀要発行

8 研究内容

(1) 各教科における書く視点を明確にしたノート・ワークシート指導

① ノート・ワークシートの位置づけ

ノート・ワークシートは、各自の思考を映し出す鏡であり、児童にとっては学習の足あとが分かるものであると考え、「思考と記録の場」として位置づけた。

そこで、以下の3点に留意してノート・ワークシートの指導に取り組んだ。

ア 学習課題とまとめが対応したノート・ワークシート

イ 思考が見えるノート・ワークシート

ウ 変容が見えるノート・ワークシート

・本時における変容

・単元における変容

② 「記録・要約・説明・論述」の具体化

各教科において「記録・要約・説明・論述」の意味やそれに対応した学習活動を洗い出し、教科ごとにどの活動に重点をおいて取り組むかを検討した。

ア 「記録・要約・説明・論述」の意味

記録	必要な情報の取り出し
要約	情報の分類・整理と関連付け
説明	事実の伝達，方法・理由の記述，報告
論述	感想，意見，論評，賛否，評価

イ 各教科における「記録・要約・説明・論述」の学習活動例

	学習活動例	国語	社会	算数	理科
記 録	必要なことを取り出してメモをする	○	○	○	○
	インタビュー，調査，聞き取りメモを書く	○	○		
	「分かっていること」「たずねていること」がわかる	○		○	
	見学記録，観察記録，実験記録を書く		○		○
	キーワードを取り出す	○	○	○	○
	変化を記録する				○
	参考資料からの抜き書きする	○	○		○
要 約	絵，図，文，記号，表，グラフ等で表す	○	○	○	○
	物語のあらすじを書く	○			
	文章構成を考える	○			
	段落のつながりを考える	○			
	分類・整理する	○	○	○	○
	本時のまとめをする	○	○	○	○
	単元末レポートを書く	○	○	○	○
説 明	理由，根拠を説明する	○	○	○	○
	順序を考えて説明する	○	○	○	○
	思い，願いを説明する	○	○	○	○
	変化を説明する		○		○
	事象を説明する		○		○
	用語を説明する	○	○	○	○

論 述	方法を改善する		○	○	
	自分の考えを入れて述べる	○	○	○	○
	自分や友だちの書き方を評価する	○	○	○	○
	なぜ筆者はこのように書いたのか考える	○			
	筆者や作者の書き方を評価する	○			
	学んだことを日常生活との関連で述べる	○	○	○	○

※各教科の重点的取り組みについては、実践事例を参照

③ ノート指導の形式

ア 全学年・各教科で共通して取り組むこと

- ・ 日付を書く
- ・ 課題は囲む
- ・ 自分の考え，予想を書く
- ・ まとめを囲む

イ 学年が上がったら(中学年以上)取り組むこと

- ・ 友だちの考えを書く

(2) 国語科において言語能力を高めるための単元構成

「言語活動の充実」は各教科で取り組まれることではあるが、国語科が「言語に関する能力を育成する中核的な教科」であることは言うまでもないことである。そこで、本時レベルにおける「書くこと」の能力育成は、各教科のノート・ワークシート指導で取り組むが、特に国語科においては単元を通した「書く力」の育成をめざした単元構成に取り組んでいくことにした。

① 「書くこと」領域で

学習過程を明確化し、以下のプロセスを意識して単元を構成し、指導にあたる。

課題設定や取材・・・誰に何を伝えたいかを明確にする

構成・・・・・・・・どのような構成で伝えたらよいか

記述・・・・・・・・明確に伝わる文章表現

推敲・・・・・・・・正しく、効果的に伝わっているか確かめる

交流・・・・・・・・お互いのよい所を評価しあう

② 「読むこと」領域の学びを「書く」に生かす

説明文や文学的教材では、指導過程の中で、筆者の述べ方の工夫を読んだり、作者の筋立てや表現方法の工夫を読んだり、「読んだこと」から根拠を得て、自分の考えを伝えたりなど、「書くこと」へのつながりを意識して単元を構成する。

(3) 「書くこと」の系統性と他教科の「書く活動」との関連付け

言語能力育成の中心である国語科の「書くこと」の指導事項の系統性、取り組む活動例を明らかにした。これによって、指導者が今の段階で、「書くこと」のどのような内容を習得していなければならないかを把握し、これを他教科の「書く活動」にも生かし、発達段階に応じた「書く力」の育成をめざした。（※7ページ別表参照）

(4) 習得したことを学習や生活に活用する場の設定

単元・本時の指導にあたっては、習得したことを活用する場面を意識し、習得・活用をセットとし、意識して指導にあたる。

① 学習での活用

	単元レベル	本時レベル
教科内で	前単元までの既習事項で、本単元において活用する知識・技能は何か。	前時までの既習事項で、本時において活用する知識・技能は何か。
	本単元において新しく習得する知識・技能は何か。それは、本単元で、または次単元からどのように活用されるか。	本時において新しく習得する知識・技能は何か。それは、本単元の次時から、または次単元からどのように活用されるか。
他教科との関連で	他教科等の既習事項で、本単元において活用する知識・技能は何か。	他教科等の既習事項で、本時において活用する知識・技能は何か。
	本単元において新しく習得する知識・技能は何か。他教科等でどのように活用されるか。	本時において新しく習得する知識・技能は何か。それは、他教科等でどのように活用されるか。

② 生活への活用

国語科・・・学校における言語生活を充実する

社会科・・・資料を選択したり、複数の資料を関連付けたりして読む学習活動を設ける

算数科、理科・・・単元の終わりに、「生活場面へ活用する」時間を設ける

教科外・・・朝の会や集会、家庭学習へ活用する。